

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2017年10月20日
第2号（通算第8号）
教育指導課教育課程係

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり研修会 ■八木山中学校 講師：田中博之氏（早稲田大学教職大学院教授）

9月13日（水）、仙台市立八木山中学校（境野 百合子校長先生）において、「主体的・対話的で深い学び」を実現に向けた授業づくり研修会を行いました。当日は、早稲田大学教職大学院の田中博之教授が、「主体的・対話的で深い学びの在り方 ～資質・能力の育成を基盤として」と題して講話を行いました。講話の冒頭でアクティブ・ラーニングという用語に対する誤解や、多忙を極める学校現場で、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための時間確保、無理のない実施のポイントについて説明があり、参加された先生方はホッとした表情を見せていました。

田中先生の講話の様子



アクティブ・ラーニングの実践レベル表

| レベル | 主体性 | 協働性 | 創造性 |
|---------------------------------------|---|--|--|
| レベル3 探究学習 関与度・高 困難度・高 | 教師による一斉指導は部分的で、学習課題・内容・方法の自己決定を含む主体的な活動を児童生徒に委ねている。 | 班の中だけでなく班をつないで学習を深めたり、地域連携や学校間学習、海外交流などにおいて相手と協力したりすることができている。 | 高度な発見をしたり、優れた作品を完成させたりして、知的な創造活動に意欲的に取り組んでいる。 |
| レベル2 活用学習 関与度・中 困難度・中 | 教師の一斉指導に導かれて児童生徒の主体的な活動が多様に展開している。活用を促す学習活動を導入し活用問題の解決に取り組んでいる。 | 作品の協働制作や討論会、プレゼンテーション、発表会、模擬裁判や模擬議会などにおいて、役割分担を明確にして、組織としてコミュニケーション活動ができている。 | レポートや論文などの作品制作や数理的処理・科学的考察などの問題解決に取り組んでいる。学習成果の発表や意見表明、討論などをして新しい考えを持っている。 |
| レベル1 習得学習 関与度・低 困難度・低 | 単元内で、教師の一斉指導が中心であるが、習得場面においてまとまった時間を取って児童生徒の自力解決や班での協働解決を促している。 | 班の中で分担を決めて、学習課題に沿って調べたり発表したりすることができている。また、評価規準に沿ってアドバイスをして作品や意見を練り上げている。 | 思考プロセスを文章化したり、本時のまとめを書いたりしている。思考を活性化する学習ツールを使って自分の考えを明確にしている。 |

- 1 自分から進んで取り組む力（主体性）
- 2 友だちと協力する力（協働性）
- 3 自分らしく表現する力（創造性）
- 4 自分で決める力（自己決定力）
- 5 問題を解決する力（問題解決力）
- 6 自分を伸ばす力（自己成長力）

また、田中先生はアクティブ・ラーニングで育てたい子どもたちの資質・能力を左記の6つの力とし、これらの力を育む実践例を動画等で分かりやすく紹介してくださいました。そのうえで、先生方が目指すアクティブ・ラーニングの実践レベルを、上記表の通り3段階で示し、総合的な学習はレベル3を、各教科においては、レベル2を目標に授業改善に取り組んでほしいと話されていました。

生徒の多様な見方・考え方の育成を目指して

■ 仙台市立加茂中学校（授業研究）

9月20日（水）、仙台市立加茂中学校（行場 啓悦 校長先生）において授業研究（全市公開）が行われました。小畑達哉 教諭が単元名「 $y=ax^2$ 」の中から「いろいろな関数」を題材に、3学年数学の授業を行いました。身の周りにおけるいろいろな数学的事象と関数の関わりを意識させ、これまで学習した関数の知識や技能を活用しながら課題を解決していく授業提案でした。小畑先生は「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業では次の4点を継続的に学習過程内に取り入れています。

- ①本時の目標の明示・学習の見通し
- ②ペア、交流活動の設定
- ③ホワイトボード（小）を使用したまとめと発表
- ④分かったこと、分からなかったことを具体的にまとめる、振り返りの時間の設定



今回、小畑先生が設定した学習課題は「新聞紙を何回折れば東京スカイツリーの高さを超えられるか」でした。1枚の新聞紙を1回、2回、3回・・・と折り重ねていくと、一般的な新聞紙の厚さが0.1mmですので、23回でスカイツリーの高さを超えることとなります。この答えを本単元で学習した知識や技能を活用し、数学的な見方、考え方をはたらかせて見つけ出そうというものです。

授業後の検討会では、加茂中学校の先生方と他校から参加された16名の先生方が3グループに分かれ、ねらいの達成度、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための4つの取組の成果と課題についてワークショップを行いました。最後に、南光台中学校の遠藤裕子校長先生に指導助言をいただくとともに「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて講話をいただきました。遠藤校長先生からは、数学的な見方、考え方を働かせるための場面や方法を、指導過程の中にどう位置付けるかを明確にすることや数学的技能を身に付けるための学習訓練の重要性が話されました。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳の授業づくり研修会

■ 五橋中学校

9月27日（水）、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向け、仙台市立五橋中学校（岡崎 徹校長先生）を会場に道徳の教科化を見据えた授業づくりに関する研修会を行いました。当日は、仙台市教育センターの大黒知行 指導主事により、アクティブ・ラーニングの視点で、道徳の授業をどのようにつくり上げていくかについて、事例を交えながら次のようなポイントが示されました。



- ・道徳の学習プロセスは限りなく存在する。（授業改善のすすめ）
- ・授業における工夫や留意点は「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を手掛かりに、生徒の実態や学級の特性などに応じて、指導内容に合った、ふさわしい方法を選択する。

五橋中学校では、今回の研修会で学んだ指導のポイントを踏まえ、11月15日（水）に 高階絵理 教諭による道徳の研究授業を公開する予定となっています。是非御参加ください。